

係	専門員	係長	主査	主幹	局長	副議長	議長

様式第13号

令和元年5月10日

鶴岡市議会議長 様

会派名及び代表者名（議員氏名）

政友公明クラブ

富樫 正教

政務活動費調査・研修報告書

調査・研修が終了いたしましたので、報告します。

期 日	令和 平成元年5月10日 ~ 平成 年 月 日
参加者氏名	中沢洋, 秋葉 雄
場所・会場	酒田市山居町 山形新南庄内総支社4階
調査・研修 項目(目的)	庄内県勢懇話会 「参院選と日本政治の展望」 一橋大学 中北浩爾氏
調査・研修 の内容及び 所 見	7月に予定していた参議院議員選挙と安倍政権の 今後の展望について、次のような項目で講演があり、本市の市政 について参考とした。 1. 安倍首相のリーダーシップと今後の憲法改正、北の領土 2. 堅調な内閣支持率 3. 一強とはどういうことか 4. 依然として厚い自民党の支持基盤 5. 統一地方選の結果と公明党というパートナー 6. 自公の野党共闘 7. 参院選はどうなるか 8. 今後の展望

(※) 自家用車を利用した場合は、「車賃（ガソリン代）内訳書」を提出して下さい。



係	専門員	係長	主査	主幹	局長	副議長	議長
■	■	■	■	■	■	■	■

様式第13号

令和元年7月29日

鶴岡市議会議長 様

会派名及び代表者名 (議員氏名)

政友公明クラブ

富樫正毅

政務活動費調査・研修報告書

調査・研修が終了いたしましたので、報告します。

期 日	令和元年7月24日
参加者氏名	富樫正毅、秋葉雄、中沢洋、黒井浩之
場所・会場	鶴岡市本町 山形新聞鶴岡支社
調査・研修項目(目的)	○庄内県勢懇話会 第265回例会 「2019参議院選挙後の安部政権の行方」 講師：流通経済大学 龍崎 孝教授
調査・研修の内容及び所見	<ul style="list-style-type: none"> ・安部にはレガシーがない。安保法制で自衛隊は憲法改正をしなくても大概のことができるようになった。レガシー作りをしている。プーチンから北方領土を返す気がないと言われて言葉が返せなかった。ロシア人は戦争と共に生きてきた。血を流すことで領土を取ってきた。彼らの尊敬する国はドイツと日本。自分たちを戦った国への敬意がある。逆に血を流して取った土地を返す気は全くない。しかし、2島返ってきそうだとマスコミに流した。政治目標は外交成果にある。条件なしに北朝鮮と対話するといったが、北朝鮮は相手にしていない。安部はあせっている。 ・憲法改正について自民候補は誰も訴えていない。総理だけが訴えていた。公明抜きには参議院では発議できないので難しい。 ・立憲は負け組の蹴落とし合いには勝ったが、新しい野党の票はこなかった。投票率50%割れの意味はすべての既成政党が負けたということ。 ・令和は衆議院だったら5議席確保。格差と社会の不満を基調とする集団。非正規だけでなく、多様性、少数の当事者。生き方や生きづらさの代弁者になった。今までは「泡沫」「際物」。「当事者」が自ら政治に参加する。無党派の10%がれいわ。既成政党の支持離れがれいわに行った。



係	専門員	係	主幹	局長	副議長	議長

様式第12号

令和元年7月24日

鶴岡市議会議長 様

会派名及び代表者名（議員氏名）

政友公明クラブ

富樫正毅

政務活動費調査・研修計画書

下記のとおり、調査・研修を計画しておりますのでお届けします。

期 日	令和元年8月5日 ～ 令和元年8月7日
参加者氏名	富樫正毅、秋葉雄、中沢洋、黒井浩之
場所・会場	東京都 TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター
調査・研修 項目(目的)	地方議員研究会セミナー 「あなたのまちの本当の財政状況を知る」
交通手段	自家用車・JR・飛行機・レンタカー
行 程	<p>8月5日 庄内空港発 14:50 成田空港着 15:55 ジェットスター</p> <p>8月6日 10:00～12:30 「決算状況【財政収支】」 14:00～16:30 「決算状況【財政指標】」</p> <p>8月7日 8:30～9:30 参議院議員会館 若松謙維事務所 成田空港発 13:00 庄内空港着 14:05 ジェットスター</p>

(※) 調査・研修の終了後は、「政務活動費調査・研修報告書」を提出して下さい。

自家用車を利用した場合は、「車賃（ガソリン代）内訳書」を提出して下さい。



議	専門員	係長	主査	主幹	局長	副局長	議長
■	■	■	■	■	■	■	■

様式第13号

令和元年8月15日

鶴岡市議会議長 様

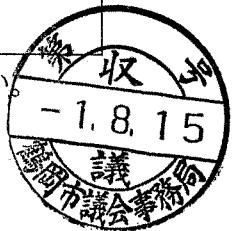
会派名及び代表者名（議員氏名）
政友公明クラブ
富樫正毅

政務活動費調査・研修報告書

調査・研修が終了いたしましたので、報告します。

期 日	令和元年8月5日 ～ 令和元年8月7日
参加者氏名	富樫正毅、秋葉雄、中沢洋、黒井浩之
場所・会場	東京都 TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター
調査・研修 項目(目的)	地方議員研究会セミナー 講師；森裕之 「あなたのまちの本当の財政状況を知る」
調査・研修 の内容及び 所 見	<p>〈8月5日〉 「決算状況【歳入】【歳出】」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の予算と地方財政のしくみ ・決算カードから財政分析に至る手法 ・地方交付税額の決定方法 ・臨時財政対策債及び地方債の仕組み ・公営事業等の繰出しにかかる着眼点 ・基金の目的と管理について ・性質別歳出から財政状況の分析に至る手法 <p>〈8月6日〉 「決算状況【財政収支】【財政指標】」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実質収支と実質単年度収支の違い ・各財政指標の読み取り方 ・合併による政令市である新潟市と浜松市を比較し、新潟市が財政悪化に至った経過と原因について解説を受けた ・財政指標の年度推移をプロットして追跡しておくことが大事 <p>(所管)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市は実質単年度収支の赤字が5年続き、埋め合わせる形で財政調整基金を取り崩していった。一方浜松市は、公共施設の削減を推し進めていった。今回の研修で学んだ成果を9月の決算審査に活かし、本市の財政健全化に取り組んでいきたい。

(※) 自家用車を利用した場合は、「車賃（ガソリン代）内訳書」を提出して下さい。



係	専門員	係長	主幹	局長	副議長	議長
■	■	■	■	■	■	■

様式第14号

令和元年7月24日

鶴岡市議会議長 様

会派名及び代表者名（議員氏名）
 政友公明クラブ
富樫正毅 ■

政務活動費要請・陳情活動実施計画書

下記のとおり、要請・陳情活動を計画しておりますのでお届けします。

日 時	令和元年8月7日 午前8時30分～9時30分
参加者氏名	富樫正毅、秋葉雄、中沢洋、黒井浩之
要請・陳情先	参議院議員会館 1207号 若松謙維事務所
要請・陳情項目	<ul style="list-style-type: none"> ・山形沖地震災害復旧支援にかかる国庫負担について ・風評被害払拭にかかる観光振興対策について
主要交通経路	<p>8月5日 庄内空港発 14:50 成田空港着 15:55 ジェットスター</p> <p>8月6日 八重洲カンファレンスセンター 「地方議員研究会研修会」</p> <p>8月7日 8:30～9:30 参議院議員会館 若松謙維事務所</p> <p>成田空港発 13:00 庄内空港着 14:05 ジェットスター</p>

(*) 要請・陳情書、他の参加者名簿等を一部添付下さい。



令和元年8月7日 要請・陳情活動参加者名簿

	氏名		
1	若松 謙維	参議院議員	
2	富樫 正毅	政友公明クラブ	
3	秋葉 雄	〃	
4	黒井 浩之	〃	
5	中沢 洋	〃	

要 望 書

日本海山形県沖地震被害に関する要望



令和元年6月18日発生日本海山形県沖地震により
屋根瓦が損壊した家屋

令和元年8月7日

鶴岡市長 皆川 治

令和元年6月18日午後10時22分に発生した日本海山形県沖地震により、本市では震度6弱を記録し、住宅や民間施設をはじめ、公共施設や各種インフラなどに数多くの被害が発生いたしました。

この度の地震では、人身に被害を受けた方の多くは軽症であり、また、家屋被害についても全壊はなく、半壊も11軒であり、多くは一部破損の状況となっています。こうした家屋被害の状況から災害救助法の適用は難しい状況にあります。

一方、東北一広い市域面積を持つ本市では、幅広い分野で小、中規模の災害が数多く発生するとともに、市内の温泉地でキャンセルが9,600人を超えるなど、観光業に深刻な影響を与えております。8月1日時点での被害額は、少なくとも約37億円にのぼっており、今後復旧にあたっては、多額の経費負担と専門知識等が必要となってまいります。

つきましては、早期の復旧に向け、下記事項について要望いたしますので、特段のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

要望事項

1 山形・新潟応援キャンペーンの拡充について

このたびの地震では、直接的な被害を受けたあつみ温泉や、直接的な被害がなかった湯野浜温泉など、市内の温泉地で9,600人を超えるキャンセルが発生いたしました。また、予約の手控えも顕著であり、例年と比較し、7月、8月で22,000人以上の減少が見込まれる極めて深刻な状況であります。

今後、新潟県・庄内エリアア DESTINATION キャンペーンの開幕により、10月は予約の回復が期待されるものの、直前の9月及び冬季に入る11月以降は予約がさらに減少する懸念があります。

つきましては、山形・新潟応援キャンペーンは、山形県及び新潟県全域が対象ですが、最も被害の大きい本市に重点的に送客いただくよう旅行会社への働きかけをお願いするとともに、インターネット旅行会社の宿泊商品を支援対象に加えていただきますようお願いいたします。

また、短期間で予約の落ち込みを回復させることは困難な状況であることから、キャンペーンの対象期間を3月末まで延長いただくとともに、予算に

についても、22,000人の3千円割引相当となる6,600万円規模への拡大をお願いいたします。

2 高速道路の無料開放について

東日本大震災による復旧・復興対策では、平成23年から高速道路の無料開放が実施され、東北地方の観光振興に大きな効果がありました。

本市温泉地では、例年、夏季から秋季にかけて、宮城県等の隣県や山形県内内陸地方からマイカー利用での観光客が増加する時期ですが、地震発生後低迷している観光客数を回復させるため、山形自動車道をはじめとした高速道路の無料開放による温泉地宿泊施設への支援をお願いいたします。

3 東北観光復興対策交付金について

地震発生以降、本市への外国人旅行者が減少しており、東北観光復興対策交付金による着実な受入体制の整備が急務となっております。

つきましては、本市が令和2年度東北観光復興対策交付金の事業要望を行っている下記の事業を採択いただきますようお願いいたします。

また、東北観光復興対策交付金について、現在の復興・創生期間終了後の2021年度以降も制度を継続いただくとともに、現在は複数自治体が連携する取組が交付対象とされておりますが、東北一広大な本市のような自治体は単独でも対象となりますように制度の改善を要望いたします。

[令和2年度要望事業]

事業名	事業費
羽黒山多言語案内看板整備 (羽黒山随神門前大型看板)	2,000 千円
出羽三山総合外国語版ガイドブック作成 (英語・中国語・韓国語)	6,000 千円
「詣でる、つかる、いただきます」旅行商品紹介パンフレット作成 (英語・中国語・韓国語)	2,000 千円
インバウンド向け観光二次交通紹介 Web サイト整備 (路線バス、観光バス、観光タクシー等の総合案内)	1,000 千円
フリーWi-Fi環境整備 (善寶寺、あつみ温泉街等)	5,000 千円
インバウンド向け食文化体験開発支援 (民間事業者向け広報費用等支援)	300 千円

4 今後発生の可能性のある余震に備えた放置建築物対策の強化について

本市小堅地区に存する旧ホテル雷屋は、廃業後に所有者及び管理責任者が不在となり、長期間放置されたことから老朽化が著しい状況にあります。

このたびの地震により、地域住民の不安が一層高まるとともに、今後発生の可能性のある余震により、ガラスや金属、コンクリート塊の崩落及び建物の倒壊も危惧されるため、建物の除却を計画しております。

当該建物は、使用建材にアスベストが使用されていることから解体工事費の増嵩を招き、現行の補助制度では市の負担が大きいことが課題となっております。

つきましては、地域住民の安全安心の確保のため、旧ホテル雷屋の除却に対する財政支援をお願いいたします。

5 木造住宅の復旧に係る支援について

このたびの地震により、瓦屋根の損傷をはじめとした家屋被害が多数発生しており、本市では損傷した瓦屋根修理の復旧支援である「鶴岡市 瓦屋根修繕緊急支援事業」と「鶴岡市 耐震性向上改修支援事業」を創設し、これら事業に社会資本整備総合交付金を活用させていただいております。

7月3日の受付開始から約1か月間に、被災者より401件の相談があり、その内約40%、162件の申請を受け付けております。

補助申請の受付状況としては約4,100万円（予算額の約34%）となっており、今後見込まれる申請の状況によっては、不足することも考えられることから予算の確保をお願いいたします。

係	専門員	係長	主査	主幹	局長	副議長	議長
■	■	■	■	■	■	■	■

様式第15号

令和元年8月15日

鶴岡市議会議長 様

会派名及び代表者名（議員氏名）
 政友公明クラブ
 富樫正毅

政務活動費要請・陳情活動報告書

要請・陳情活動が終了しましたので報告いたします。

日 時	令和元年8月7日 午前8時30分～9時30分
参加者氏名	富樫正毅、秋葉雄、中沢洋、黒井浩之
要請・陳情先	国土交通省各担当者（下記のとおり）
要請・陳情項目	（下記のとおり）
要請・陳情先面会者	（下記のとおり）
要請・陳情概要	<p>「山形・新潟応援キャンペーンの拡充について」 面会者：村田観光庁観光地域振興部長 回 答：インターネット商品の取り扱いについては可能か調査したい。国でも現在予算確保を検討中。</p> <p>「高速道路の無料開放について」 面会者：長橋道路局次長 回 答：東日本大震災と同じには考えられないので、現在無料開放の考えは持っていない。</p> <p>「東北観光復興対策交付金について」 面会者：村田観光庁観光地域振興部長 回 答：本年度までの執行状況や成果を分析したうえで、次年度以降の予算確保につなげていきたい。</p> <p>「余震に備えた放置建築物対策の強化について」 面会者：淡野大臣官房審議官 回 答：既存の枠組みでの支援を予定している。東北地方整備局には話は通しておく。</p> <p>「木造住宅の復旧にかかる支援について」 面会者：淡野大臣官房審議官 回 答：状況は理解した。まずは、既決予算で対応していただき、不足が見込まれそうな場合は速やかに対応できるように考えておく。</p>

(*) 要請・陳情書、他の参加者名簿等を一部添付下さい。



係	専門員	係長	主査	主幹	局長	副議長	議長
■	■	■	■	■	■	■	■

様式第12号

令和2年1月27日

鶴岡市議会議長 様

会派名及び代表者名（議員氏名）

鶴岡市議会公明党

富樫正毅

政務活動費調査・研修計画書

下記のとおり、調査・研修を計画しておりますのでお届けします。

期 日	令和2年2月1日 ～ 令和2年2月3日
参加者氏名	富樫正毅、秋葉雄、黒井浩之
場所・会場	鹿児島県鹿児島市 城山ホテル鹿児島
調査・研修 項目(目的)	第29回北前船寄港地フォーラムIN鹿児島
交通手段	自家用車・JR・飛行機・レンタカー
行 程	<p>2月1日 庄内空港発 7:10～8:20 羽田空港着 羽田空港発 11:35～11:55 鹿児島空港着</p> <p>2月2日 10:45～12:00 日中地方都市交流会議 13:30～17:45 第29回北前船寄港地フォーラムIN鹿児島</p> <p>2月3日 10:00 鹿児島市長表敬訪問 鹿児島空港発 12:20～羽田空港着 13:35 羽田空港発 15:55～庄内空港着 16:55</p>

(※) 調査・研修の終了後は、「政務活動費調査・研修報告書」を提出して下さい。
自家用車を利用した場合は、「車賃（ガソリン代）内訳書」を提出して下さい。



本	専門員	係長	主査	主幹	局長	副技	技

様式第13号

令和2年2月20日

鶴岡市議会議長 様

会派名及び代表者名（議員氏名）

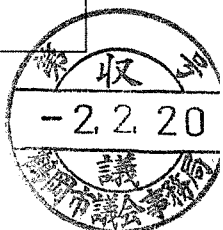
鶴岡市議会公明党

富樫正毅

政務活動費調査・研修報告書

調査・研修が終了いたしましたので、報告します。

期 日	令和2年2月1日 ～ 令和2年2月3日
参加者氏名	富樫正毅、秋葉雄、黒井浩之
場所・会場	鹿児島県鹿児島市 「維新ふるさと館」「城山ホテル鹿児島」「鹿児島市役所」
調査・研修 項目(目的)	<p>2月2日</p> <p>「維新ふるさと館」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庄内藩と南洲翁の交わりが今の鹿児島にどのように受け継がれているのかを学ぶ <p>「第29回北前船寄港地フォーラム IN 鹿児島」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産認定を受けた北前船寄港地の各都市と交流を深め、日本遺産を観光交流に活かす各都市の取組みを学ぶ <p>2月3日</p> <p>「鹿児島市長表敬訪問」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北前船寄港地フォーラムの開催について情報交換を行い、兄弟都市としての交流を一層推進することを確認する
調査・研修 の内容及び 所 見	詳細は別紙資料のとおり



鹿児島県鹿児島市

○「維新ふるさと館」について

黒井浩之

1. 視察日時 令和2年2月2日 午前10時～

2. 視察事項 「維新ふるさと館」 館長 XXXXXXXXXX

3. 説明内容

- ・何度も鶴岡を訪問しており、サムライとシルク展も開催させていただいた。致道博物館の本間学芸部長から鹿児島に来ていただいてシンポジウムも開催した。鶴岡と鹿児島の絆は近年更に深まっている。
- ・はじめは庄内の皆様が何故西郷を敬愛しているのかわからなかった。庄内から西郷の功績を教えられた。鹿児島には実は西郷の功績を伝えるものは少ない。明治政府が破棄したからだ。
- ・西郷の戦に立ったやむない心情を正しく伝え、遺徳を讃えるのが本館の目的であり、庄内との絆が大事なひとつであると考えている。

4. 所感

- ・展示内容に占める庄内の割合の多さに驚いた。内容でも庄内藩を賊軍としてではなく、最後まで戦ったけなげなる勇者として説明されており、庄内へ敬意を払っていただいていることに感銘を受けた。
- ・南洲翁からの厚情に庄内が応え、その絆にさらに鹿児島市が感銘を受けており、私たちが思っている以上に、鹿児島市では庄内藩を高く評価していただいていた。徳の交わりは時代を超えて生き続けており、これからも忘れてはならない大事な価値観である。
- ・致道博物館にも南洲翁関係は展示されているが、今の世代につながり今後の交流につながる展示になっているのか再度検討し、鹿児島市との交流がより深まるように市でも積極的に関わっていくべきではないかと感じた。

※当初計画していた「日中地方都市交流会議」は新型コロナの影響で中国からの訪問団が来日できず急きょ中止となったため、日程変更となりました。

鹿児島県鹿児島市

○「第 29 回北前船寄港地フォーラム IN 鹿児島」について

黒井浩之

1. 視察日時 令和 2 年 2 月 2 日 午後 1 時 3 0 分～

2. 視察事項 「第 29 回北前船寄港地フォーラム IN 鹿児島」 於：城山ホテル鹿児島

3. 内容

- ・九州地方では初の開催。鹿児島は北前船の寄港地ではなかったが、畿内から北前船で運ばれてきた昆布などを琉球や中国へ運び、財力を蓄えてきた。その歴史から鹿児島市長の 4 年越しの強い要請で鹿児島開催が実現した。
- ・中国大連市を中心とした自治体から約 40 名が参加予定であったが、新型コロナウイルスの影響で急きょ不参加になった。
- ・北前船交流拡大機構名誉会長の新田嘉一氏からメッセージが寄せられた。鶴岡市と鹿児島市の歴史と兄弟都市盟約に触れ、観光・交流は言葉や文化の違いを認め合い学び合うことから始まる、否定や排除の論理からは何も生まれない、本フォーラムの目的はそこにある。(趣旨)

〈基調講演 磯田道史氏〉

- ・長州藩の石高は 1840 年代 36 万石、しかし実際は農業生産高 80.0 万石のうち 38.6%が年貢、非農業生産高は 72.5 万石であったが 1.3%しか運上していない。計 152.5 万石の力があつた。
- ・非農業生産からの「運上」は少ないので、年貢米以外の収入源があることが大きい。
- ・産物は「専売」しかなかった。産物まわしが可能な藩と不可能な藩がある。綿は肥でとる、と言われた。家畜糞より魚かすが効率がよい。北前船で魚かすを運び、綿を栽培した。
- ・江戸から遠いから専売ができる。近いとみんな自分で売りに行く。そこに+外国の窓口で貿易は拡大し、財を蓄えることができた。
- ・薩摩藩の識字率 70%は異例の高さ。さらに日清戦争の賠償金で識字率減らして、97%まで下がった。
- ・二毛作ができるところは人口が伸びる。米麦は二毛作。土佐は二期作しかできなかった。
- ・お金があつて知的レベルが高いのが薩摩の特殊性。薩摩藩の強さは「郷中教育」にある。何か起きる前に答えを見出しておくことが教えとしてあつた。
- ・地理的特性も大きい。隅っこは守りやすい。家康もそこまでは攻めていけなかった。

4. 所感

- ・令和元年 5 月に日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間」～北前船寄港地・船主集落～全国 45 市町が参加し認定された。北前船寄港地フォーラムも大きな組織となり、その交流頻度はますます高まっている。
- ・庄内からも酒田市鶴岡市あわせて 30 人が参加し、物販やアピールで関係職員も活躍し、大きな存在感を発揮することができた。

- ・鹿児島市関係者と本市訪問団が業種を超えて幅広く情報交換ができたことは非常に有益であった。
- ・磯田氏の「薩摩はなぜ強いのか」と題した講演は、氏独自の研究に基づいて証拠を示しながらの説明に参加者は深く納得していた。定員を大きく上回る鹿児島市民の申し込みにより市民の関心の高さをうかがわせると同時に、話の内容に強い誇りを持った様子であった。
- ・郷土の歴史を学ぶことで、市民が自信と誇りを持つことを感じた。本市で令和4年度に予定されている酒井家入部 400 年にも、鶴岡市民が改めて地域に自信と誇りを持つ機会となるような企画を考えてまいりたい。

鹿児島県鹿児島市

○「鹿児島市長表敬訪問」について

黒井浩之

1. 日 時 令和2年2月3日 午前10時00分～

2. 場 所 鹿児島市役所本館2階特別会議室

3. 出席者

〈鹿児島市〉

松永副市長、有村観光交流局長、成尾観光交流部長、奥観光プロモーション課長、他

〈鶴岡市〉

山口副市長、本間議長、秋葉雄、富樫正毅、黒井浩之、伴元教育委員、他

4. 内 容

・山口副市長

今年度は鹿児島市市政施行130周年と鹿児島市・鶴岡市の兄弟都市盟約締結50周年の節目。2回訪問させていただいたが、手厚く歓迎していただき、改めて御礼申しあげる。

・本間議長

北前船フォーラムイン鹿児島開催には多大なご尽力をいただき、ありがとうございます。中国関係者の交流事業が中止になったことは大変に残念。しかしながら、多くの自治体、企業の参加も得ることが出来て盛況であり、市長をはじめ実行委員会の皆様に敬意を表したい。

・伴元教育委員

伴兼之の墓参をさせていただいたが、誰かわからないがいつも花を手向けていただいていると伺ってきた。墓地には庄内柿も植えられていて、庄内と鹿児島の確かな結びつきを感じることができた。今も弔っていただいていることに厚く御礼申し上げたい。

・秋葉雄

戊辰戦争の終結、庄内藩への寛大な処分がなされてから150年が過ぎているが、南洲翁の教えは今でも引き継がれている。これからも南洲翁の遺徳をしのび、次の世代に伝えていきたい。鹿児島と鶴岡の絆も、北前船フォーラムをきっかけに一層深めていきたい。

・松永副市長

鹿児島は実は北前船の恩恵を受けて財力を蓄えることができたということが、今回のフォーラム開催でよくわかった。歴史をひもといていけば、さまざまな形でつながっているということがよくわかった。鶴岡市との交流もいろいろな形で続けていくことで、さらに絆が深まっていくと思う。

係	専門員	係長	主査	主幹	局長	課長	議長

様式第12号

令和2年3月18日

鶴岡市議会議長 様

会派名及び代表者名（議員氏名）

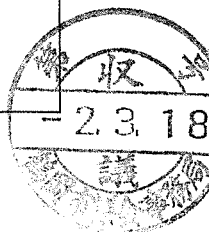
鶴岡市議会公明党

富 樫 正 毅

政務活動費調査・研修計画書

下記のとおり、調査・研修を計画しておりますのでお届けします。

期 日	令和2年3月26日 ～ 令和2年3月28日
参加者氏名	富樫正毅、秋葉雄、黒井浩之
場所・会場	宮城県気仙沼市、岩手県陸前高田市
調査・研修 項目(目的)	東日本大震災からの復興に向けた取り組みを学ぶ
交通手段	自家用車・JR・飛行機・ <u>レンタカー</u> ・ <u>バス</u>
行 程	<p>3月26日 (午前) 9:00 庄内観光物産館～高速バス～11:30 仙台駅前 (午後) 仙台～レンタカー移動～気仙沼市</p> <p>3月27日 (午前) 【気仙沼商工会議所】 (午後) 【唐桑半島ビジターセンター・津波体験館】</p> <p>3月28日 (午前) 【東日本大震災津波伝承館（いわてツナミメモリアル）】 (午後) 14:35 仙台駅前～高速バス～17:05 庄内観光物産館</p> <p>※詳細は別紙のとおり</p>



令和元年度 鶴岡市議会公明党 行政視察行程表

月日	行 程	備 考
<p>3/26 (木)</p>	<p>9:00 11:30 庄内観光物産館 ～ (高速バス) ～ 仙台駅前 (レンタカー移動)</p> <p>【気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館】 〒988-0246 宮城県気仙沼市波路上瀬向 9-1 Tel0226-28-9671</p> <p>[宿舎] 磯村 〒988-0026 宮城県気仙沼市幸町 4 丁目 1-31 Tel0226-24-1133</p>	<p>・震災遺構保存に向けた取り組みについて</p>
<p>3/27 (金)</p>	<p>(宿舎発 レンタカー移動)</p> <p>【気仙沼商工会議所】 〒988-0084 宮城県気仙沼市八日町二丁目 1-11 Tel0226-22-4600</p> <p>(移動)</p> <p>【唐桑半島ビジターセンター・津波体験館】 〒988-0554 宮城県気仙沼市唐桑町崎浜 4-3 Tel0226-32-3029</p> <p>[宿舎] 大船渡プラザホテル 〒022-0002 岩手県大船渡市大船渡町字茶屋前 7-8 Tel0192-26-3131</p>	<p>・震災復興に向けた民間事業者の取り組み</p> <p>・津波避難対策への取り組みについて</p>
<p>3/28 (土)</p>	<p>(宿舎出発 レンタカー移動)</p> <p>【東日本大震災津波伝承館 (いわてツナミメモリアル)】 〒029-2204 岩手県陸前高田市気仙町字土手影 180 (高田松原津波復興祈念公園内) Tel0192-47-4455</p> <p>14:35 17:05 仙台駅前 ～ (高速バス) ～ 庄内観光物産館</p>	<p>・道の駅高田松原と伝承館の整備手法について</p>

名	姓	職	主	幹	局	長	副	議	長

様式第13号

令和2年3月31日

鶴岡市議会議長 様

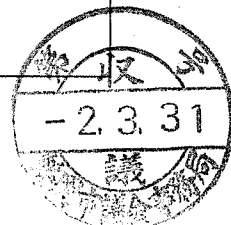
鶴岡市議会公明党

富樫正毅

政務活動費調査・研修報告書

調査・研修が終了いたしましたので、報告します。

期 日	令和2年3月26日 ～ 令和2年3月28日
参加者氏名	富樫正毅、秋葉雄、黒井浩之
場所・会場	宮城県気仙沼市、岩手県陸前高田市
調査・研修 項目(目的)	<p>3月26日 【気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館】 ・震災遺構保存に向けた取り組みについて</p> <p>3月27日 【気仙沼商工会議所】 ・震災復興に向けた民間事業者の取り組み 【唐桑半島ビジターセンター・津波体験館】 ・津波避難対策への取り組みについて</p> <p>3月28日 【東日本大震災津波伝承館 (いわてツナミメモリアル)】 ・道の駅高田松原と伝承館の整備について</p>
調査・研修 の内容及び 所 見	詳細は別紙資料のとおり



宮城県気仙沼市

○気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館について

黒井浩之

1. 調査日時 令和2年3月26日 15:00～

2. 調査事項 震災遺構保存に向けた取り組みについて

気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 館長 佐藤克美氏

3. 施設概要

・旧気仙沼向洋高校の震災遺構をそのまま保存し、将来にわたり震災の記憶と教訓を伝え、警鐘を鳴らし続ける「目に見える証」として活用し、気仙沼市が目指す「津波死ゼロのまちづくり」に寄与することを目的として整備されたもの。

・館長は市職員で、市の施設として運営している。

・周辺には、遊具公園やパークゴルフ場を整備し、身近に防災を考えさせる施設となっている。

4. 事業概要

◇整備にあたっての事業費と財源内訳

事業費総額 約12億円

ア 気仙沼市東日本大震災遺構 約6億円（財源：復興交付金及び震災復興特別交付税）

イ 気仙沼市東日本大震災伝承館約6億円（財源：復興交付金及び震災復興特別交付税）

◇ランニングコストについて

指定管理料 55,955千円（年間税込み）

※指定管理料については、防災・減災教育施設としての機能を維持しながらも、多大な財政負担にならないよう、決算状況や入館者属性等による経営分析を半期ごとに行い、より効率的かつ効果的な運営やセールスにつなげることで圧縮を図っている。

（計画 年間75,000人見込み）

収入合計額 40,750千円（入館料）－支出合計額（指定管理料） 55,955千円

＝△17,936千円（市一般財源）

※開館から5年程度は、「業務分割方式（市直営と指定管理者の業務を分割し、市と指定管理者が常時協議しながら、それぞれの業務を実施）」を採用し、入館料及び研修室等使用料は市の収入とする「収受代行制」としている。

※ランニングコストの面で国からの支援はなし。

◇展示や整備について苦労した点など

- ・肖像権使用同意を取り付けること
- ・展示資料確保

◇整備前、整備後の市民の反応

- ・整備前は、入館料を支払って来館する人は少ないとの意見がありましたが、開館後は「一度は伝承館へ」との声が聞こえてきた。
- ・来館された方々からは、「震災遺構気仙沼向洋高校旧校舎を残してくれてありがとう」というメッセージが寄せられている。

◇その他

- ・教育旅行や視察研修で利用される団体向けに、①館内を案内し、震災の教訓を伝える「語り部ガイド」、②防災や災害時に役立つ「防災セミナー」「ふりかえりワークショップ」などメニューを充実させて防災研修に力をいれている。
- ・生徒が無事避難し、死者は〇人だったこともあり、震災遺構として残すことに否定的な声はなかったとのこと。
- ・小学校の低学年以下の子どもたちは、震災を知らない世代なので、来館して学習することにさして抵抗がなくなってきたが、記憶にある年代ではまだ来たくないという生徒もいる。
- ・周辺はどんどん道路や宅地の復旧は進み、新しい街が造られ始めているが、そこだけ 3.11 で時間が止まっている。散乱した教科書や学習資料、車や工場の部材などが3階や4階まで押し上げられ、こんなところまで津波が上がってきた現実に驚かざるをえない。
- ・映像シアターでは、ここでしか見られない未公開映像など気仙沼の映像を集め、迫力ある内容であった。自然の恐ろしさを身に沁みさせる。また、卒業式の映像は、気仙沼市民を勇気づけるとともに訪れた人の胸を打ち、復興への決意を新たなものにしてくれる。

5. 所感

- ・この施設は、自然を共に暮らすには相当の覚悟が必要であること、世代がかわっても引き継ぐことの難かしさを教えてくれる。多くの犠牲を払った東日本大震災を伝承するためにはなくてはならない施設であると感じた。
- ・今回の研修を通じて接した多くの人から、また来てくれてありがとう、との言葉をいただいた。被災した方々にとっては、復興が進む一方で忘れ去られてはじめていく怖さがあり、絆が薄らいできているように感じている。本市も有縁の地とは今後とも引き続き交流を深めていく必要がある。
- ・自然の怖さを肌で感じるができる施設であり、本市の沿岸部における津波教育にもより具体性を持たせる工夫が必要ではないかと感じた。

会派行政視察報告書

報告者 秋葉雄

1、 視察項目

- ① 震災復興に向けた民間事業者の取り組み
- ② 津波避難対策への取り組みについて

2、 日程、

- ① 令和2年3月27日 午前10時～正午
- ② 令和2年3月27日 午後1時30分～午後3時

3、 視察地

- ① 宮城県気仙沼市商工会議所
- ② 唐桑半島ビジターセンター、津波体験館

4、 視察参加者

富樫正毅
秋葉雄
黒井浩之

5、 視察市の概要

- ① 人口の推移
人口（市全体）

		H 1 7	H 2 2	H 2 7
	総人口	78,011	73,489	64,998
	男	37,346	35,197	31,772
	女	40,665	38,292	33,216
	世帯数	25,509	25,457	24,152
15歳未満	男	5,382	4,562	3,409
	女	5,058	4,184	3,170
	合計	10,440	8,746	6,579
15～64歳	男	23,107	21,005	18,279
	女	23,456	20,999	16,985
	合計	46,563	42,004	35,264
65歳以上	男	8,800	9,518	9,767
	女	12,131	13,082	12,942
	合計	20,931	22,600	22,709
	不詳	77	139	436

② 年少人口・生産年齢人口・老年人口

	平成 22 年国勢調査				平成 27 年国勢調査			
	気仙沼市	気仙沼地区	唐桑地区	本吉地区	気仙沼市	気仙沼地区	唐桑地区	本吉地区
年少人口（15歳未満）	8,746	6,666	719	1,361	6,579	4,967	494	1,118
生産年齢人口 （15歳から64歳）	42,004	31,700	4,162	6,142	35,264	26,547	3,302	5,415
老年人口（65歳以上）	22,600	16,723	2,538	3,339	22,709	16,777	2,477	3,455

③ 地勢

気仙沼市は、北上山系の支脈に囲まれ、そこから流れ出る大川や津谷川などが西から東に向かって流れ、太平洋に注いでいる。

太平洋に面した沿岸域は、半島や複雑な入り江など、変化に富んだリアス式海岸を形成し、気仙沼湾は、湾口に大島を抱き、四季静穏な天然の良港となっている。

このリアス式海岸特有の海岸美により、三陸復興国立公園及び海域公園、並びに南三陸金華山国立公園の指定を受けている。

市の総面積は 332.44 平方キロメートルで、宮城県内では 7 番目（平成 25 年 10 月 1 日現在）の広さである。

④ 産業について

気仙沼市は、三陸海岸南部の交通や商業の拠点となっており、リアス式海岸を利用した観光も発展している。

特定第三種漁港の気仙沼漁港を初めとした市内の各漁港は、三陸海岸での沿岸漁業、養殖漁業、世界三大漁場「三陸沖」での沖合漁業、さらに世界の海を対象とした遠洋漁業の基地として機能し、関連する造船から水産加工までの幅広い水産業が立地している。

このような背景から、気仙沼都市圏の中心市としての買物客の集客や各地から訪れる観光客に加え、漁業・水産関係者の往来も多い。カツオを追って北上してくる千葉県・高知県・宮崎県などの漁船、サンマを追って南下してくる北海道などの漁船に乗った日本各地の漁民が行き交い、遠洋漁業の外国人乗組員や水産加工に従事する外国人研修者が働き、特産のフカヒレを買い求める中国人バイヤーなどが訪れ、常住人口に比して交流人口が多様な県内有数の交流拠点の一つである。

⑤ 東日本大震災

2011 年 3 月 11 日、マグニチュード 9.0 の東北地方太平洋沖地震、それに伴って発生した津波、更には、気仙沼港にあふれ出た重油火災の三重苦ともいべき災害により壊滅的な打撃を受けた。

2016 年 3 月 1 日時点で市内の死者は 1,214 人、行方不明 220 人、住家全壊が 8,483 棟、港湾施設や漁船、造船所、水産加工施設も甚大な被害を被った。

今回の視察は、この東日本大震災後、民間の事業者がどのような施策によって復興を果たして来たかを学ばせていただくことを目的としたものである。

6、 産業復興の現況

水産業、水産加工業の復興

気仙沼は水産業のまちである。震災後2年目頃には港湾機能もほぼ復旧し、漁港として、本格的に稼働出来るようになり、その後、一昨年までは比較的順調に水揚げを伸ばし、悪い時でも約200億円以上の水揚げがあったが、去年は温暖化の影響もあるのか、さんまを初めとする近海漁業の不漁により153億円でまで落ち込んだ。

一方、水産加工業は、重油火災により壊滅的な打撃を受けた同市の鹿折(ししおり)地区において、民間企業である三井住友グループの全面的支援により、加工場の再建のみならず販路の新規開拓なども功を奏し、順調に回復している。

又、漁船の乗組員や水産加工場での人手不足に対しては商工会議所が、監理団体としてインドネシア、フィリピン、ベトナム等からの技能実習生を積極的に受け入れ、現地との連携も図りながら、人材の育成に努めている。

7、 防潮堤について

これまで経験したことのない大災害に直面した同市では、国からの支援により、気仙沼港全体を囲むように防潮堤を建設する計画であったが、高い塀に取り囲まれ市街から海が見えなくなる閉塞感は耐えられない、と住民の間に反対意見が多く、中々建設が進まないという課題があった。

これに対し、民間の商工業者から、この防潮堤に窓を設置し、海が見える構造にする案が出され、国もこの案を採用して、アクリル製の透明の窓を設け、同市鹿折地区の防潮堤に、24ヶ所の窓を設けて整備された。

8、 唐桑半島ビジターセンター・津波体験館

平成18年、気仙沼市と合併した旧唐桑町にある唐桑ビジターセンターは、唐桑半島の自然や人々の暮らし、文化を紹介する施設である。津波によって被害を受けた漁港や商店街などの大震災後の様子、四季を彩る植物などの写真が展示されている。また、津波体験館は、三陸海岸では度々発生している「津波」をテーマに、実際に即してストーリー化し、映像音響、振動、送風等を組み合わせた津波の疑似体験ができる施設となっている。

小学生向けの防災教育用に、1クラス全員で津波を疑似体験することにより、津波の恐ろしさや、破壊力を実際に遭遇したかのように体験できる施設である。

9、 所感

東日本大震災後の被災地は現在どの程度復興し、住民の暮らし、産業の復興はどうなっただろうか、という点について学ばせてもらいたいとの思いで、年度末にも拘らず、気仙沼市を訪問し、気仙沼商工会議所で、同市商工会議所名誉会頭、震災当時の会頭であった臼井賢志氏にご説明頂きました。

同氏は平成 25 年の鶴岡市大産業まつりの開催に際して、気仙沼市の水産加工業者 8 社の出店、気仙沼漁協からのさんま 1000 匹の寄贈と共に、さんま焼きを提供して下さったバス 1 台のボランティアの方々の派遣に尽力していただいた方です。同市と鶴岡市は、臼井氏のご尽力によってその年の市共催事業である「いのちのコンサート」への気仙沼八幡太鼓の子どもたちの出演、翌年 3 月に気仙沼市で開催された「食文化交流セミナー」の開催と数々の交流を積み重ねて来ました。

前泊したホテルも被災から 7 年越しに再オープンしたホテルであり、被災から 9 年を経過して、少しずつ被災前の姿を取り戻しつつあるという現状でした。しかし、街全体がコンクリートで覆われ、道路や橋、インフラの整備が進み、処々、空き地が目立つ中で、建物も立地してきているものの、人間の復興には未だ道半ばなのではないか、と感じる点が多くありました。

産業の復興という点については、被災地とは言えども、市全体の商工業者が大同団結して、復興事業に取り組むのは利害の調整が困難を究め、せっかくの三井住友グループからの申し出も、全市に展開させることが出来ず、その中でも地域全体が重油火災によって焼失してしまった鹿折地区だけが、地域住民が一体となって復興事業に取り組んだことにより、三井住友グループも鹿折地区の復興という点に特化して住居はかさ上げされた高台へ、水産加工場群は港の近くに立地させ事業を再開させた上で、水産加工品の海外輸出を可能にするなど将来に亘って支援して下さることになったのだと教えて下さいました。

やはり、どんな時も、心をつなげて取り組むことで、何事も成就するのだということをお学ばせていただきました。

被災後、復旧費用の 4 分の 3 を国と宮城県で支援するグループ補助金によって工場を再建した石巻市の水産加工業界が、昨年の大不漁、巨額の再建費の返済という困難により危機に陥っているのとは対症的であり、災害からの復旧・復興は、将来を見据え、よほど計画的に進めねばならないのだと痛感した次第です。

報告者 高 樫 正 毅

[情景・概要]

陸前高田市は岩手県の南端、三陸地方のおよそ中間に位置し、日本百景であった、白砂青松の浜「高田松原」の約75本の松を有する美しい砂浜へ誘う道の駅でありましたが、東日本大震災の津波により甚大な被害を受け休止しました。その後、高田松原津波復興祈念公園内に、国営追悼・祈念施設、東日本大震災津波伝承館(いわてTSUNAMIメモリアル)と共に道の駅が整備され、令和元年9月にオープンしました。平成27年1月に重点「道の駅」に認定され、震災の追悼と鎮魂、復興を国内外に向け明確に示す目的として施設整備され、三陸沿岸地域のゲートウェイとして津波防災の伝承、教育や観光等の情報発信、地域振興等の賑わいの場として位置づけられている。

尚、施設概要は添付資料を参照してください

〔所感〕

道の駅高田松原・東日本大震災津波伝承館の在る、陸前高田市の中心地は、大変寒々しい様相を呈している。その主たる要因の一つに復興が、西隣りの大船渡市や気仙沼市に比へて遅れている印象がある。両市は漁港を持ち、日本有数の水産業及び水産加工業が主産業であるが陸前高田には、そのような中核的産業がないためではないかと推察される。また、「かさ上げ工事」も大きな要因になっていると感じている。「かさ上げ工事」には、かなり長い時間がかかっている。完成を待たずに多くの人が移住せざるを得なかった状況がある。一時避難先で仕事を始めたり、子どもが学校に通い出したりすると、どう簡単に戻れなくなっている。こうした経緯から、かさ上げ工事が完了し、宅地造成が終っても、なかなか沿岸部には人が戻って来ない現状がある。震災が起きるくても、東北の沿岸部は過疎化と高齢化が進み、人口減少が著しかった。そこに、未曾有の大災害が起きたことで、人口減少に拍車がかかってしまった。もう少し早く「かさ上げ工事」が完了していればと思う。

地域づくり、町づくりといふと「地域を永續させるためには、個人の意思は抑えるければいけない」「地域のために、個は犠牲になる、でも仕方がない」とよく考えがちなところがある。しかし、それでは10年後、20年後に誰も住みたいと思われない町が残ってしまう。そもそも「復興」とは、一人の人の心が再生することを意味するはずである。被災地で「課題」を抱えた人たちと、外部の人たちが緩やかにつながり、そのつながりがさらに外側に向かって広がっていく。そうしたつながりを拡大させていきながら、もう一度、「復興」について考える大事な時期にきていると思う。

今度、視察させていただいた高田松原津波復興記念公園は、とてもよくと忘れがちなにっている未曾有の大震災を再確認させるとともに、決して風化させないといけない体験であり、震災である。一日も早い「心の復興」の実現に向け、我々が何ができるのか考えさせられたし、多くの方がこの施設にお訪れしていただきたいと思う。